

日本文体論学会
第 117 回大会
プログラム

2021 年 6 月 26 日 (土)

於 杏林大学井の頭キャンパス (Zoom によるオンライン配信有)

日本文体論学会

日本文体論学会会員の皆様

昨年猛威を奮った新型コロナウイルス感染症が、今もなお、とどまることをしらず、私たちの生活に大きな変容をもたらしました。昨年に引き続き、日本国内で開催される学会は対面での開催は中止となり、オンライン形式で行われております。本学会も、昨年度は発表者の皆様に録画をしていただき、それを閲覧後に掲示板にて質疑応答を行うという形式を試みました。発表して下さった皆様、参加して下さった会員の先生方に感謝申し上げます。発表者の方々は、発表内容を加筆修正した論文を投稿くださいました。査読審査を経て本年3月にお送りいたしました学会誌『文体論研究』にて掲載されております。コロナ禍という状況においても、研究発表を行い、論文を執筆し、それが学会誌に掲載されるという、これまで、日本文体論協会、日本文体論学会と諸先輩方が築き上げてきた伝統を守ることができました。

日本文体論学会の117回大会の開催に向けて、理事の先生方や運営委員の先生方と何度も協議を繰り返してきました。現在、私たちの置かれている状況を鑑み、Zoomを利用したリアルタイム・オンライン形式での開催をいたします。通常とは異なる方法による大会となるため、不慣れな会員の方々もいらっしゃる、ご不便をおかけしますが、インターネットに接続されたPCにスピーカー、マイクがあればご参加できます。今回は研究発表に加え、特別講演として長年、文体論学会のみならず、若手研究者の心の支えとして見守ってくださっております吉田卓先生の特別講演も開催いたします。本来でしたら、研究発表、特別講演の後に懇親会を開催し、旧交を温める機会を持ちたかったのですが、残念ながら叶いませんでした。しかしながら、特別企画として「ざっくばらんに語り合える会」を設けてみました。テーマが設定されておりますが、お集まりいただきました皆様と、文体論研究について情報を交換したりできればと願っております。なお、会場校として杏林大学井の頭キャンパスでも参加可能としておりますが、感染状況に左右されますため、以下のご案内にあります、オンライン参加申込フォームにご入力いただき、Zoomのミーティング情報をお受け取りください。うまくQRコードが読み込めない場合は、学会ホームページの「大会案内」から情報をご確認頂ますようお願い申し上げます。

なお、総会もオンラインにて開催いたします。そのため、指定されている時間にアクセスしていただき、議決にご協力ください。理事の先生方に置かれましては、文書による理事会開催とさせていただきたく、別途ご連絡をさせていただきます。

2021年5月25日

日本文体論学会

会長 倉林 秀男

日本文体論学会第 117 回大会

日時：2021 年 6 月 26 日（土）

会場：杏林大学井の頭キャンパス D105 教室（オンライン配信有り）

※オンラインで参加される場合、6月23日（水）までに、以下のサイトから
事前申し込みをお願いいたします。登録いただいたメールアドレスに、Zoom
のミーティング情報をお届けいたします。



○右の QR コードまたは学会 HP からお申し込みをお願いいたします。

12:00 受付

※オンライン参加の方は、お名前を日本語（漢字・ひらがな・カタカナ）で表示いただくことで、
受付に代えさせていただきます。

12:10 総会

13:00 開会

開会のことば・会場校あいさつ

会長 倉林 秀男（杏林大学）

研究発表（発表時間 25 分、質疑応答 10 分）

(1)13:10 福本広光（英語：大阪大学[院]）

司会：八木橋宏勇（杏林大学）

「米国大統領演説における分離不定詞構造 —Lincoln の事例を中心に—」

(2)13:45 中元雅昭（中国語：日本大学）

司会：栗原千里（日本大学）

『白氏文集』にみる「雪」の描写—その心象と方法を中心に—」

特別講演

14:30 吉田卓先生（大阪学院大学）

司会：田中洋（杏林大学）

「三浦哲郎の文体と手法 — 彼の私小説としての短篇小説をめぐって —」

15:50 閉会のことば

16:00 特別企画

【お知らせとお願い】

◎大会に関する問い合わせは【yagihashi@ks.kyorin-u.ac.jp】までメールをお願いいたします。

◎当日は学内の売店等がご利用いただけない場合があります。また、キャンパス周辺の飲食店も限られています
ので、昼食を取られる方はご持参をお勧めします。

◎総会も Zoom で参加いただくことができます。会員の方はご出席ください。

【学会事務局からの重要なお知らせ】

大会や学会誌投稿のご案内は、メールで配信しております。学会事務局にメールアドレスをお届けになられて
いらっしゃる方は、お手数をおかけして申し訳ございませんが、学会事務局 (buntairon-post@infotec.co.jp)
へ電子メールでご一報ください。件名は「メールアドレス登録」としていただけますと幸いです。

研究発表要旨

(1) 「米国大統領演説における分離不定詞構造 — Lincoln の事例を中心に —」

福本広光（英語：大阪大学[院]）

本研究は米国歴代大統領による演説（スピーチ）を対象に、アメリカ英語における分離不定詞（to better understand など）使用の特徴の一端を調査分析することを目的とする。

データソースとして、Corpus of Presidential Speeches (Brown, 2016) 所収の電子テキストを用いる。ここでは主に第 16 代大統領 Abraham Lincoln のデータに出現する分離不定詞に関して記述的分析を行い、以下の 4 点について論じる。

- (i) Lincoln が歴代大統領の中で最初に分離不定詞を「多用」した。
- (ii) 名詞的用法、特に「本動詞の目的語」や「形式主語構文の真主語」としての用例が目立ったが、形容詞的または副詞的用法による用例も少数ながら一定数確認された。
- (iii) to 不定詞を否定する“to not V”は、当時は一般に殆ど用いられていなかったが、Lincoln の演説には比較的頻出し、文の曖昧性解消や韻律との関連が見られた。
- (iv) “to so V”の構造は、単独で様態の意味を表す用法の他に、so...that 構文や so...as to 構文の構成要素の一部としても機能していた。

本発表は「生起頻度」、「統語パターン」、「構成要素として使用された副詞」という複数の視点から、Lincoln が演説にて用いていた分離不定詞の特徴を中心として新たな知見を提示し、本構造を通時的・文体論的に考察するための一つのモデルを示すことを試みる。

(2) 『白氏文集』にみる「雪」の描写—その心象と方法を中心に—

中元 雅昭（中国語：日本大学）

本研究では、『白氏文集』に見られる「雪」の語の分析を通じて、風景描写におけるその機能と詩人の心象について考察する。自然美を象徴する「雪月花」という語は白居易の造語であることは広く知られているが、未だ『白氏文集』の「雪」のみに着目した分析は試みられておらず、本研究の意義は極めて大きい。本研究の方法としては、『白氏文集』以前の詠雪詩とそれに関する先行研究を概観した上で、『全唐詩電子検索系統』等の電子データベースを駆使し、『白氏文集』における「雪」字の抽出作業を行う。「雪」に関するすべての作品を網羅的に整理・分析することによって、その風景描写と心象との関係性を浮き彫りにする。今後の研究の方向性としては、白居易周辺の詩人の「雪」表現についても調査を行い、中唐時代の詠雪詩の展開を模索することによって、唐詩全体における「雪」の風景描写の特質を明らかにしていきたい。

特別講演

「三浦哲郎の文体と手法 — 彼の私小説としての短篇小説をめぐって —」

吉田卓先生（大阪学院大学）

日本文学の最後の私小説家といわれ、また短篇小説の名手としても名を馳せた三浦哲郎(1931-2010)は、青森県八戸市の出身である。生家は八戸市の中心、三日町に老舗の呉服店を構えていた。彼は二人の兄、三人の姉のあと、一番下の三男として誕生した。だが、その後、うえ二人の兄は失踪し、二人の姉は自殺をしている。その兄二人の失踪も今では自殺とみなされている。残ったのは、すぐ上の姉と三浦のふたりだけだった。

三浦は 1961 年（昭和 36 年）、29 歳のとき『忍ぶ川』で芥川賞を受賞して文壇に彗星のごとくデビューした。彼の作品の多くは私小説である。家族の悲しいできごとを背景に、リリズムを静謐に湛えた文体で語られており、三浦の感性のしなやかさがよくあらわれている。今では彼の文体とリリズムは多くの読者を獲得している。

今回は、文庫本でわずか九頁ほどの短篇小説『みちづれ』を採りあげ、この作品に用いられている最小にして、きわめてシンプルで、且つ短い表現、「どうぞ」と「おさきに」の 2 語に着目して、その効果的なはたらきについて述べてみたいと思う。

特別企画

—学会誌編集委員経験者と話してみよう—

—大学院の先にある仕事やキャリアをこっそり教えます—

新型コロナウイルス感染症が猖獗を極めており、今回も皆様と会場でお会いすることが難しい状況となっております。いまなお、重大な警戒が必要とされてはおりますが、それでも真理の輝きは尽きません。したがって、学問的探求の場はたゆまず持続的に続けていくことが望ましいと言えます。困難も多い中ではありますが、この 1 年ほどで培った知恵と工夫を凝らし、前を向いて教え学び合えたらと願っています。

日本文体論学会には、様々な背景を持つ大学院生や研究者が集っております。大学院生の方、新規入会された方、各研究分野の最前線で活躍されている先生方、長く日本文体論学会の発展にご尽力くださった経験豊富な先生方が、ざくばらんに交流する場を設けますので、もしよければ 1 時間ほどお話しませんか？

トピックは自由で構わないと思いますが、話のきっかけとして、若い研究者の方向けに以下 2 つのテーマをご用意いたしました。

○「学会誌編集委員経験者と話してみよう」

学会誌の査読のベールを、明かせる範囲で明かし、本学会誌ほか様々な学術誌に投稿する心理的距離を縮めるきっかけとなればと思います。

○「大学院の先にある仕事やキャリアをこっそり教えます」

大学非常勤講師や専任教員の採用、大学院生に知っておいてほしい大学教員の姿やキャリアパスについて、今後の学会活動の参考にもしてほしい情報をお伝えできたらと思います。

会場参加者向け 杏林大学 井の頭キャンパスへのアクセス方法

(最寄り駅は、中央線・総武線「三鷹駅」「吉祥寺駅」、京王井の頭線「吉祥寺駅」です。)

- **三鷹駅** (JR 中央線・総武線) の南口バス乗り場 (8 番) より「杏林大学井の頭キャンパス」行 (約 15 分)
- **吉祥寺駅** (JR 中央線・総武線・京王井の頭線) の南口バス乗り場より
 - バス乗り場 (5 番) 杏林大学井の頭キャンパス行 (約 15 分)
 - バス乗り場 (2 番) 千歳烏山駅北口行〈新川経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (3 番) 大沢行「新川」下車 (約 9 分)、武蔵境駅南口行〈大沢経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (4 番) 調布駅北口行〈神代植物公園前経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (6 番) 深大寺行「新川」下車 (約 9 分)、野ヶ谷行「新川」下車 (約 9 分)
調布駅北口行〈野ヶ谷経由〉「新川」下車 (約 9 分)

※「杏林大学井の頭キャンパス」行に乗車の場合、終点で下車ください。キャンパス中央にある神殿のような建物に向かって左側、3つ並んでいる棟の一番奥がD棟です。

※「新川」で下車する場合、左手に少し戻ると正門があります。キャンパス中央にある神殿のような建物に向かって右側、3つ並んでいる棟の一番手前がD棟です。

杏林大学 井の頭キャンパスマップ



日本文体論学会 事務局

〒206-0033

東京都多摩市落合 2-6-1 (株) インフォテック内

電話 : 042-311-3355 Fax : 042-311-3356 E-mail : buntairon-post@infotec.co.jp